

令和 6 年 7 月 1 日
水戸芸術館現代美術センター

各小中学校及び義務教育学校長 様

令和 6 年度 小中学生のための学校訪問アートプログラム（ご案内）

水戸芸術館現代美術センターは、令和 3 年度から学校訪問プログラムに積極的に取り組んでいます。今年度も学齢別のプログラムを用意し、現代美術を通じて子どもたちが発想力や創意工夫を発揮する機会を届けます。図工・表現の時間はもとより、総合的な学習の時間や特別活動の一部として、本プログラムをご活用いただけると幸いです。

期 間：令和 6 年 9 月～令和 7 年 1 月まで

会 場：各学校

趣 旨：当センターが学校を訪問することで、より多くの子どもたちに、美術を通じたアクティブ・ラーニングや造形遊びの機会の提供を図ります。

※レクチャーのプログラムについてはオンライン実施の相談に応じます。

概 要：当センターの職員が講師とともに学校を訪問し、児童生徒を対象にアートプログラムを実施します。プログラムには、1. 図工・表現、2. 鑑賞、3. レクチャーの 3 種類があります。

費 用：1. 図工・表現に関してのみ、材料費として一律 300 円／人のご負担をお願いいたします。
2. 鑑賞、3. レクチャーは無料です。

申 込：プログラム一覧と申込フォームを配布いたしますので、必要事項を FAX あるいは Email にてお申込みください。

プログラム一覧と申込フォームについては、当館ウェブサイトにも掲載します。

募集期間＝令和 6 年 7 月 8 日（月）から 8 月 30 日（金）まで **※先着順**です。

◇ アーティスト等講師とのスケジュール調整のため、希望日時を第 3 希望までご記入ください。

◇ 複数のプログラムの受講を希望する場合は、できるだけ多くの学校に参加いただくため、全てをお受けできない場合があります。また、プログラム毎に分けてお申込みください。

◇ 規模や学級の特性に応じた内容の調整についてはお電話にてお気軽にご相談ください。

◇ お申込みを多数いただいた場合は、お受けできない場合があります。

◇ 申込数に余裕がある場合は、上記の募集期間終了後も引き続き受け付けます。

プログラム一覧

1. 図工・表現

当館での展覧会に出品しているアーティストなどを講師として派遣する、水戸芸術館がこれまで作ってきた多様なネットワークを生かした企画です。アーティストが自身の活動を紹介するとともに、子どもたちが楽しみながら自らの手で創作し、発表するワークショップです。1

★ポイント

- 子どもたちがアーティストという存在およびアーティストの作品を通して、独特の着眼点や発想力に直接触れる機会を得る。子どもが元来もっている想像力と創意工夫を発揮できる機会となる。
- 子どもたちが自らのアイデアをかたちにするための表現力、造形力を培う。

①塩川岳『エアドーム』(継続)

対象：小学生(低学年におすすめ)

時間：45分×2コマ

時期：9月～1月(要調整)

会場：広めの屋内スペース

児童数：25名～40名(学級・学年単位応相談)

材料費：300円 ※材料費は一人当たり(以下同)



当プログラム実施の様子(令和5年)

子どもを対象に様々なワークショップを行っている塩川岳(アートコミュニケーション／現代美術)を講師に迎え、カラービニール袋を透明テープで貼り合わせ、クラスのみんなで大きなエアドームを作ります。空気を送り込んでドームを膨らませ、ミラーボールを仕込むと幻想的な空間が立ち現れます。絵や工作が苦手な児童も楽しめます。

※エアドームの中に入らず外から楽しむ内容にもアレンジ可。

②津田翔平『遊びのようなもの～オリジナル障害物競争～』(新企画)

対象：小学校低学年～中学年

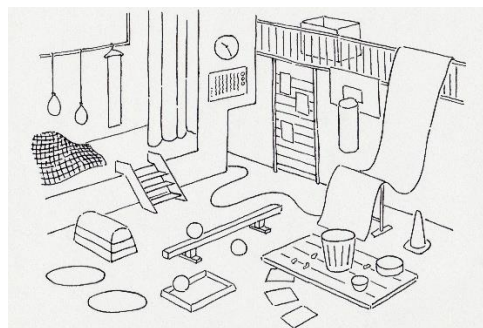
時間：45分×2コマ

時期：9月～1月(要調整)

会場：体育館

児童数：学級単位

材料費：300円



作家によるアイデアスケッチ

③高学年向け「遊びのようなもの」をもっとたくさん子どもたちに体験してもらえるようにアレンジしました。1時間目は、講師の津田さんが関わっているインドネシアにある遊びをみんなで体験し、一見遊びとは縁遠く思える日用品や学校の学習に使う道具を用いた新しい遊びをグループで考えます。2時間目はその遊びを障害物リレーのように体験します。遊びを通して、不完全でもアイデアを形にしていける楽しさ、「当たり前」と思っていた日常の再発見を促します。

③津田翔平

『遊びのようなもの～国語を体育する～』(新企画)

対象：小学校高学年

時間：45分×2コマ

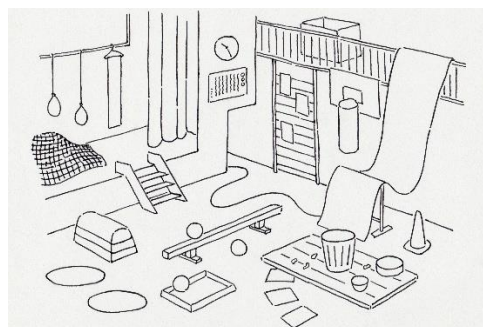
時期：9月～1月(要調整)

会場：1コマ目 教室あるいは図工室

2コマ目 体育館

児童数：学級単位

材料費：300円



作家によるアイデアスケッチ

学校では教科ごとに学び、休み時間に遊びます。でも、学びの中にも遊びはあるし、遊びの中にも学びがあります。そして例えば通勤通学や買い物・料理のように私たちの生活には、国語、算数…などすべての教科での学びが生かされます。このワークショップでは、「当たり前」を新たな視点で捉え直すことで、慣れ親しんでいる学校について子どもたちに再発見してもらいます。1時間目は国語についてアーティストといっしょに掘り下げることで子どもたち自ら遊びを生みだし、2時間目はその遊びを体を使って実際にやってみます。

④山下麻衣+小林直人『花を描いて植えようー花に
対して、また花と共に』（新企画）

対象：小学校高学年～中学生

時間：45分あるいは50分×2コマ

時期：9月～10月初旬

会場：1コマ目 教室あるいは図工室・美術室

2コマ目 水戸芸術館広場

児童数：学級単位

材料費：300円

備考：1コマ目と2コマ目は同日が希望。もし1コマ目のあと植えるまで日にちがあく場合は、本ワークショップの一環として学校で児童生徒が水やりをして花苗のお世話を体験する。

映像インスタレーションを中心に国内外で活躍する山下麻衣+小林直人（7/27～10/6に当館にて個展開催のアーティスト・ユニット）を講師に招き、当館広場に展開される新作（巨大な花壇に皆で花を植え育てていく参加型のプロジェクト）に関連したプログラムを実施します。各々が花の苗を水彩絵の具でスケッチし、思い入れの生まれた花を自分の手で植えるという行為を通し、写生から現代アートへ美術の表現の多様さを体験するワークショップです。



《人が花に対して、また花と共に行う営み》のためのイメージスケッチ、2024年

⑤松原容子『自分定規』（継続）

対象：中学生におすすめ（他学年応相談）

時間：45分あるいは50分×2コマ

時期：9月～1月（要調整）

会場：教室あるいは美術室

児童生徒数：学級単位

材料費：300円



制作された「自分定規」

設計用の定規に見立てたカラフルな三角柱の木片に、自分独自の「ものさし」を書き込み、「定規」を作ります。3面の使い方は自由で、過去の出来事や未来の計画など、時間軸で文字や絵を描くのもいいですし、興味のあることを書いたり、目の前にある風景や友人との会話を今日の記録として残したりしてもいいでしょう。『自分定規』は今それぞれが持つ価値観や未来への希望を写し、残す記録の「定規」です。将来を考え、自分を見つめる時期の中学生にとくにおすすめします。

⑥学校版『造形実験室』（継続）

対象：小学校低学年～中学生

時間：45分あるいは50分×2コマ

日程：9月～1月（9月の場合、7月中にお申込みください）

会場：教室あるいは美術室

生徒数：学級単位

材料費：300円



当プログラム実施の様子（令和5年）

令和4年度から当館で開催している、造形を通じた交流の場「造形実験室」が学校に出張します。当館教育プログラムコーディネーターが、ご依頼のあった学級に合わせた造形ワークショップを先生方と相談しながら組み立て、市民ボランティアスタッフとともに実施します。

実施例）身近な植物によるたたき染、各種ひもを使った造形遊び、普通紙を変身させる造形実験

2. 鑑 賞（材料費負担なし）

⑦ 視覚に障害のある人との鑑賞プログラム

「session！学校版」（継続）

講師：白鳥建二（全盲の美術鑑賞者）

対象：小学校高学年～中学生（中学生におすすめ）

時間：45分あるいは50分

時期：9月～1月

会場：教室

児童生徒数：学級単位



ギャラリーでの session!の様子

当センターによる、視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session！」でナビゲーターを務める全盲の美術鑑賞者白鳥建二さんを講師に迎え、対話型の作品鑑賞を行います。「session!」での鑑賞スタイルをもとに、作品画像を見ながら作品の色や形、自分の感じたことを生徒たちが言葉で伝え合うなかで、見ているつもりで実は見えていなかったことや、見る者同士でも見方・感じ方・伝え方が異なることなど多くの発見がうまれます。見る人も見えない人も共に作品鑑賞を深めていくプログラムです。

★ポイント

- 見たことを人に伝える作業は、言葉を自ら探し、発する（言語化の）レッスンになる。
- 「見る」ことを丁寧に行うことで、ふだん意識していない「見る」という行為を改めて体験し、見る／見える／見えない／見えるけれど見ていないことについて考える機会になる。
- 障害について考えるきっかけとなり、また、さまざまな個性をもつ人々が共に生きる社会を自覚し、意識を高めることになる。

※中学3年生の道徳の教科書（光村図書）に掲載され、本や映画にもなるなど注目度の高いプログラムです。

⑧ 市民ボランティアによる対話型鑑賞（継続）

講師：当センター市民ボランティア

対象：小学校中学年～中学生（低学年応相談）

時間：45分あるいは50分

時期：9月～1月

会場：教室

児童生徒数：学級単位



ギャラリーでの対話型鑑賞の様子

当センターでは市民ボランティアによる対話型の鑑賞ツアーとして、現代美術について市民の視点から来館者と自由に語り合う活動を行っています。その経験を積んだ市民ボランティアと児童生徒が、作品画像を見ながら言葉を交わし、作品鑑賞を楽しみます。一つの答えを導き出すのではなく、作品をじっくり観察して一人ひとりの感じ方を言葉にして共有し、互いに差異を認め合う活動です。

★ポイント

- 一人ひとりの異なる意見が尊重される「対話」を行い、互いの考えやものの見方を知り、認め合うことを体験する。
- 学芸員など専門家の視点からではなく、「市民」にとっての芸術の楽しみ方、社会や日常における芸術の生かし方を学ぶ。
- 学校や家庭など子どもたちの日常生活では必ずしも出会わないような、さまざまな経験や視点を持つ大

人と子どもたちが会い、社会の多様さを知る機会となる。

※当センターの市民ボランティアは、展覧会の内容について担当学芸員からレクチャーを受け、また鑑賞の手引きについては専門講師から研修を受けて、1993 年以来、対話型の鑑賞ツアー「ウィークエンドギャラリートーク」を実施している。

3. レクチャー（材料費負担なし）

⑨学芸員によるレクチャー

講師：当センター学芸員

対象：主に小学校 4 年生～中学生

時間：45 分あるいは 50 分

時期：内容によって応相談

会場：教室または体育館等、オンライン可

児童数：学級単位、学年単位 応相談



当プログラム実施の様子（令和 5 年）

当センターの学芸員が開催中の展覧会や現代美術にまつわるレクチャーを行います。各学校の IT 環境によってはオンラインでの講義も可能です。

実施例)

- ・団体鑑賞の事前学習として、展覧会の企画趣旨や経緯、概要、ポイントについて話す。
- ・中学 3 年生の総合的な学習の枠組みで、社会にかかわる現代美術の事例について講義。

所要時間 45 分以上（実施例では 2 コマを使用し、質疑応答などを含んで実施）

お問合せ

詳細についてなど、お気軽にお問合せください。

水戸芸術館現代美術センター Tel. 029-227-8120 Fax.029-227-8130